

Introduction and Geology

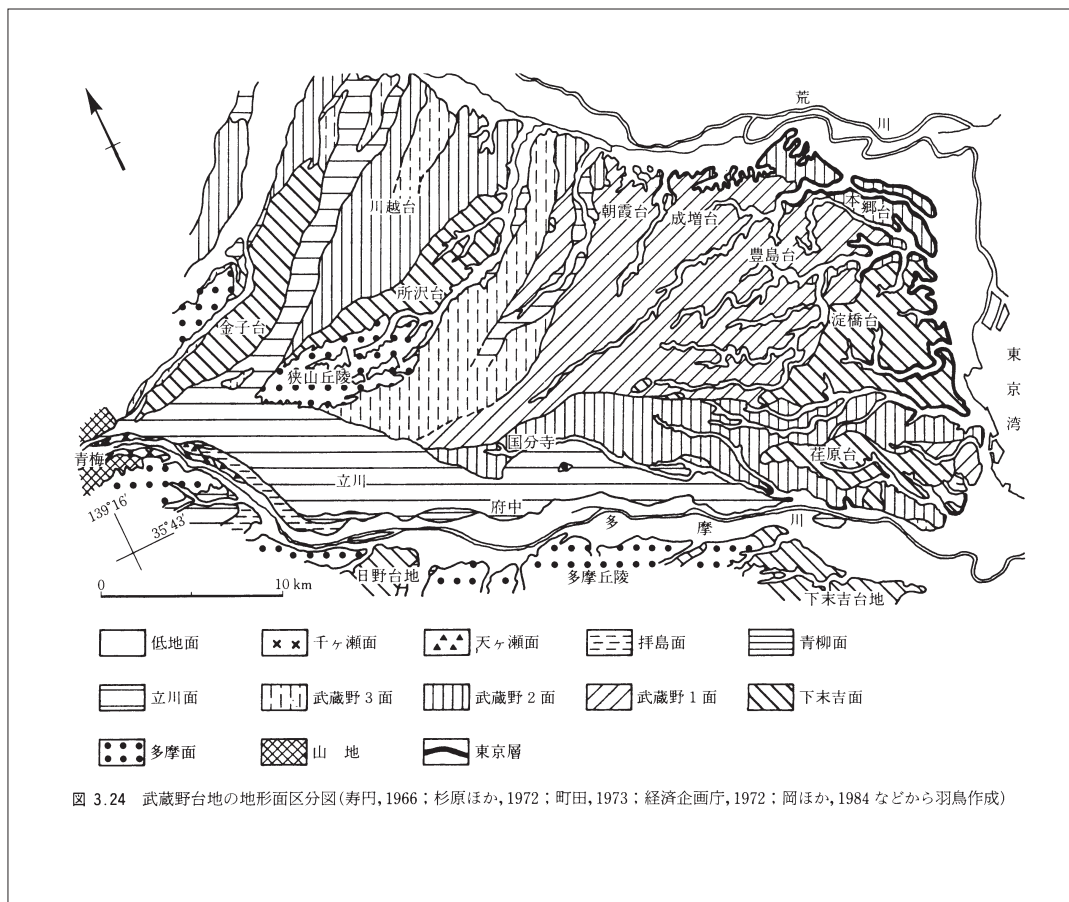
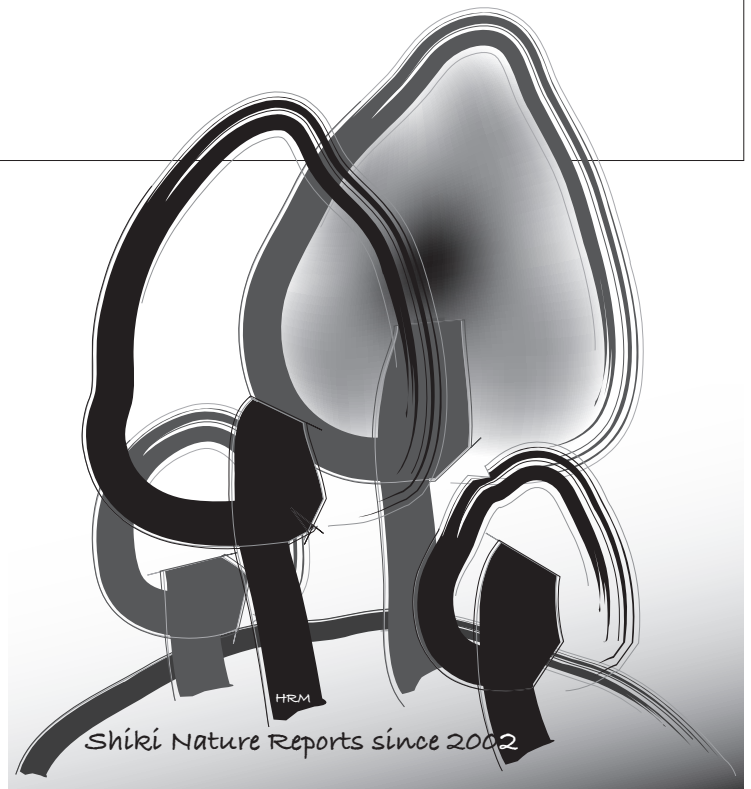
志木高の土台

取りあえず第二号を刊行できた。
今回は、志木高がどのような土台の上
に載っているのか、というお話をした
い。

本校は、地質学の世界で『武蔵野
台地』と呼ばれる丘陵の末端部に位置
している。

武蔵野台地は、多摩川が関東山地か
ら平野部に出るときに流速が遅くなる
ためにできた大規模な扇状地である。

その北縁は飯能から川越へ流れ出る荒川の支流で、南縁は現在の多摩川流域にあたる。約7万年から2万年前までの間の堆積物である。多摩川の河床の高さは浸食によって約6万年間に



20mほど下がってきて
いる。ただし、狭
山丘陵の部分は基盤
となっている山塊の
山頂部が堆積物に埋
没せずに残っている
部分である。

この武蔵野台地上
には、富士・箱根火
山起源の火山灰から
なるローム層が堆積
している。

志木高は、このよ
うな台地の末端にあ
るのである。

(Miyahashi)

志木の自然[葉月(8月)～霜月(11月)]

葉月以降の志木高は、比較的花の少ない時期に入る。特に長月(9月)以降は、実りの季節を迎える。『四季』が配られる頃は金木犀の甘い香りが漂っているはず。

鳥類は、「ちょっとこい、ちょっとこい」と鳴いていたコジュケイの声が8月前後を境に聞かれなくなり、一方でアオゲラの緑色に赤い冠の姿が、木々の間に見られるようになる。

好天に恵まれるこの時期は、天体観測にも絶好の時期である。

Plants [9月までの記録とこれからの見通し]

【2002.5.10±】セイヨウハコヤナギ[Populus]が種子散布。

ドロヤナギと近縁のこの種は、北大の並木通りのポプラとして有名。この種子は白く長い毛を持つ綿毛で、この時期、校内や校庭の至るところに綿毛が舞うのはこの種子である。

【2002.6.12】ムクロジが开花。

本校でムクロジが見られるのは、この寮跡地のみである。そして、この四季報が発行される時点で既に志木高の土地ではなくなっている。残念なことである。

【2002.9.9】ツルボ开花。ユリ科で桃色の小型の集合花をつける。昨年は観察されなかった。

【2002.8.26】オオケタデ开花。人の背丈ほどにも伸び、桃色の房状の花をつける。

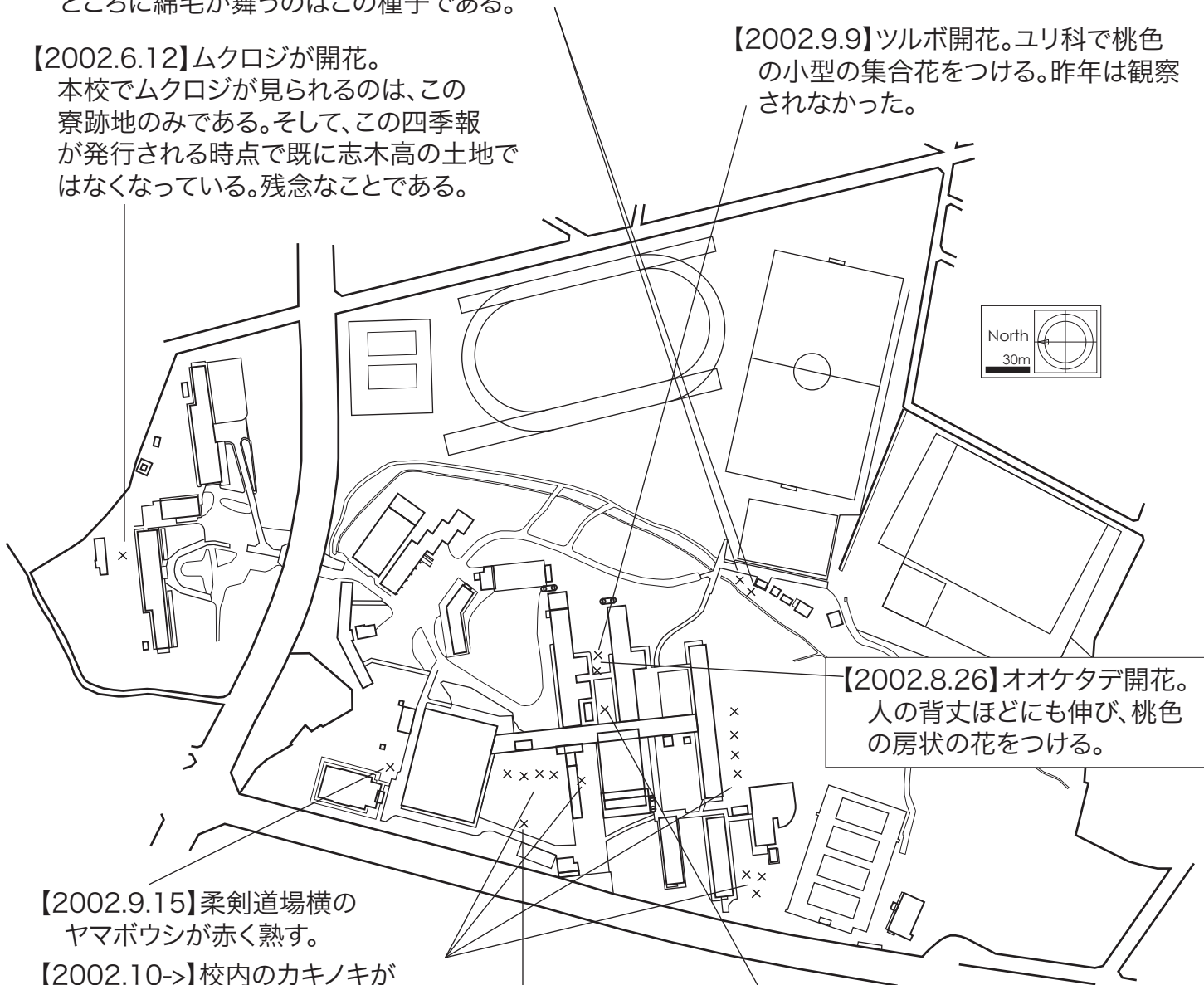
【2002.9.15】柔剣道場横のヤマボウシが赤く熟す。

【2002.10->】校内のカキノキが熟していく。他の実が熟していないのに1個だけ熟しているのは要注意。虫食いの可能性大。

【2002.8.5】カラスウリが开花。開花は夜間の為、花を直接目にする機会は少ない。レース状の白く美しい花を咲かせる。

(Miyahashi) 【2002.9.15】ヤマハギ开花。
がく片が4裂する点でマルバハギと異なる。

この限られた紙面では、どのような植物、動物かをすべてお示しする事は不可能です。名前を手がかりにぜひ図書館で一度調べてみてください。



9月24日観察記録

カラス、ヒヨドリ、キジバト、シジュウカラ、コゲラが、志木高の林の中で観察できます。

昆虫類では、アキアカネが多数飛来しており、容易に確認できます。アキアカネは、日本国内で観察できるもっとも一般的なアカトンボで、良く晴れた無風の日を選んで高い山並を目指して、飛び立っていくのが観察できます。これは、羽化すると水辺を離れるというトンボの共通特性が極端に発展したものと考えられています。

草本では、ヒガンバナ、ミズヒキ、ホトトギスが見られました。

(Hayami)

Astronomy

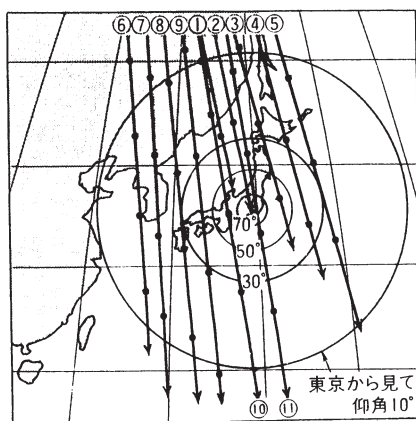
人工天体(9月30日)

季節は秋分。これからは夜がだんだん長くなり、空気が徐々に澄んでいく…星を観るには良い時期を向えようとしています。今回は星といっても人工的な星「人工衛星」の話です。

人工衛星は静止軌道衛星と極軌道衛星の二種類があります。静止軌道衛星は地球の自転に合わせて常に一定の視点で地球を見つめており、地上にいる人からはみかけ上常に止まって見える衛星で、気象衛星ひまわりなどが挙げられます。極軌道衛星は北極と南極を結ぶ大円を一周する衛星で、地球全体の観測に適しており、地球環境観測衛星などに利用されています。

さて、私たちには人工衛星がどのように見えるのでしょうか。静止衛星は文字通り上空に静止して見えることとなりますが、極軌道衛星は私たちの遥か上空の軌道を描くこととなります。来たる9月30日18時12分から14分頃、関東地方上空を北北東から南南西へ人工衛星(電子偵察衛星COSMOS1005, 1978-45B)が通過する予定です。明るさは3~4等級。肉眼で見するにはやや暗い星ですが、天気が良ければ、きっと動く人工衛星の姿を捕らえることができると思います。ぜひ試してみてください。

(Higuchi)



←出典:月刊天文10月号(2002. vol. 68)

【図1】コスモス1005 (1978-45B) の予報軌跡

- ①9/21 19h38m~42m ②9/22 19h18m~23m
 ③9/23 18h58m~19h03m ④9/24 18h38m~43m
 ⑤9/25 18h18m~24m ⑥9/25 19h52m~59m
 ⑦9/26 19h32m~40m ⑧9/27 19h10m~20m
 ⑨9/28 18h50m~58m ⑩9/29 18h30m~38m
 ⑪9/30 18h10m~18m (点の間隔は2分)

四季折々(九月の俳句)

花たでの垂れたる房のやわらかさ

和統

たでの花あわいピンクが涼しげに

義徳

萩の枝地より沸きだし地へ向かう

剛

沸き上がる萩の噴水潜る蝶

慎之介

コオロギの鳴き声覆つ萩簾

孝治

これらの句は、諸君の先輩達が創作したものです。

『四季』を配付する時期がちょうど萩・たでの花の盛りなので

「萩・たで特集」にしてみました。咲いている場所は中の地図を参考に。

執筆・担当区分	俳句	本井 英 (Motoi)
	天文・気象	樋口 聡 (Higuchi)
	鳥類他	速水 淳子 (Hayami)
	樹木・小動物[&発行責任]	宮橋 裕司 (Miyahashi)